

2015年3月期 決算説明資料



アクリーティブ株式会社

【東証一部 8423】

I. 2015年3月期 連結決算

	ページ
1. 2015年3月期 連結決算	3
2. 債権取扱高・債権買取収益	4
3. 債権取扱高 業種別	5
4. 業務受託収益	6
5. 金融費用	7
6. 販売管理費	8
7. 営業利益・経常利益・当期純利益	9
8. BSの概況	10

II. 2016年3月期における取組み

	ページ
1. グループ事業領域	12
2. 事業ポートフォリオ	13
3. 医療・介護分野における取組みについて	14
4. インバウンド関連分野における取組みについて	15
5. 海外における事業展開について	17
6. 2016年3月期 業績予想 (2015.04.01～2016.03.31)	19

I . 2015年3月期 連結決算状況

1. 2015年3月期 連結決算

【PL概況】

(単位:百万円)

	2013.3	2014.3	2015.3	増減	前期比	(参考) 2016.3 通期予想
債権取扱高	138,626	157,693	181,117	23,424	114.9%	-
営業収益	2,807	2,932	3,345	413	114.1%	3,900
債権買取収益	1,714	1,810	1,872	61	103.4%	-
業務受託収益	930	1,013	1,358	344	134.0%	-
その他収益	162	108	115	7	107.0%	-
金融費用	288	200	163	△ 37	81.5%	-
金融費用率	10.3%	6.8%	4.9%	-	-	-
販売管理費	1,589	1,621	1,734	112	106.9%	-
販管费率	56.6%	55.3%	51.8%	-	-	-
営業利益	929	1,109	1,448	338	130.5%	1,570
営業利益率	33.1%	37.8%	43.3%	-	-	40.3%
経常利益	979	1,142	1,486	343	130.0%	1,600
経常利益率	34.9%	39.0%	44.4%	-	-	41.0%
当期純利益	853	1,177	1,455	278	123.7%	1,530
当期純利益率	30.4%	40.1%	43.5%	-	-	39.2%

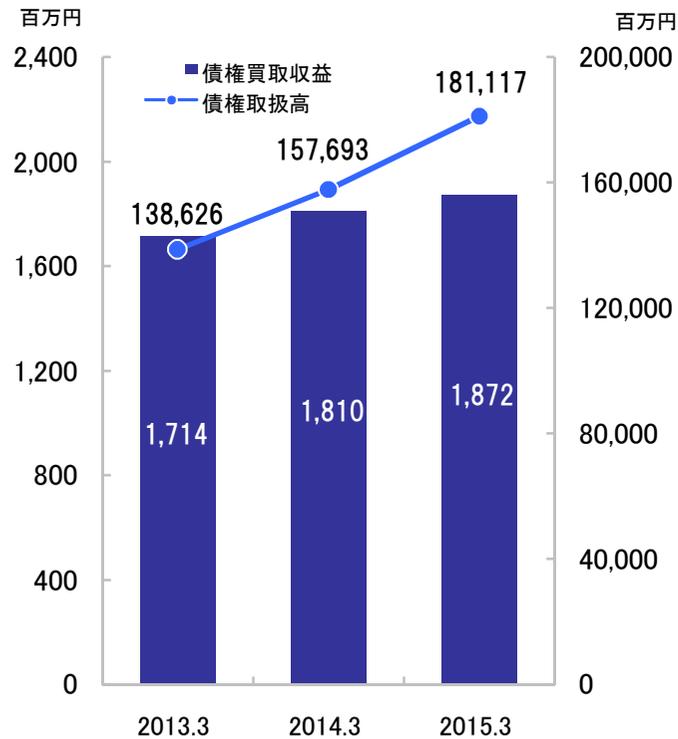
【BS概況】

(単位:百万円)

	2013.3	2014.3	2015.3	増減	前期比
総資産	20,390	19,643	20,894	1,250	106.4%
負債	17,566	15,680	15,465	△ 214	98.6%
純資産	2,824	3,963	5,428	1,465	137.0%

2. 債権取扱高・債権買取収益

債権取扱高・債権買取収益推移



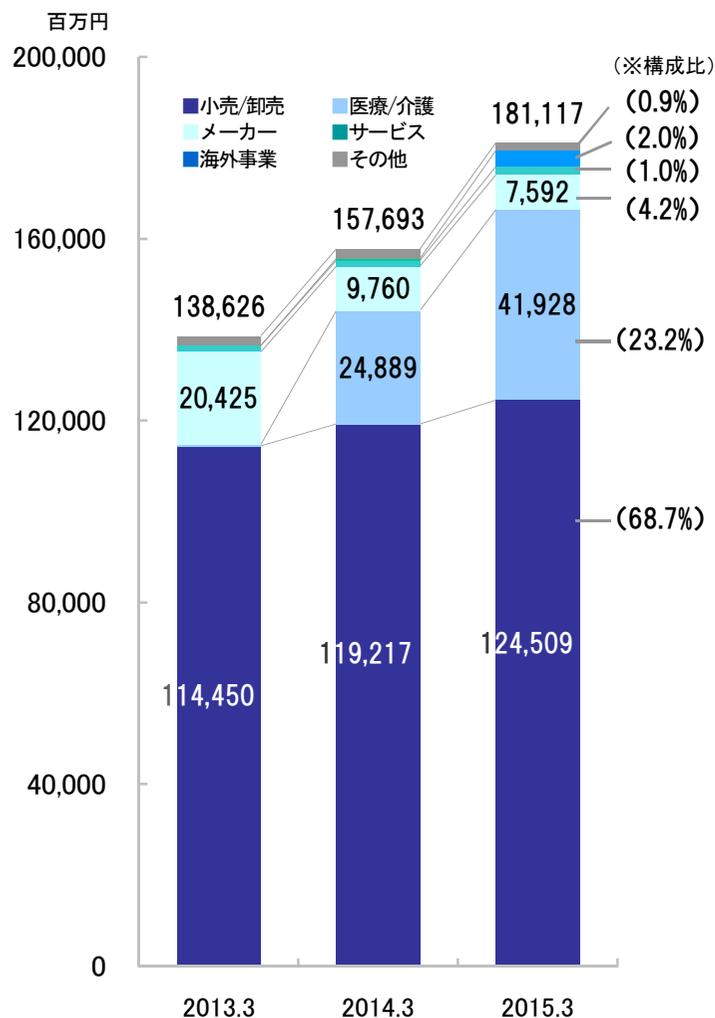
(単位: 百万円)

	2013.3	2014.3	2015.3	増減	前期比
債権取扱高	138,626	157,693	181,117	23,424	114.9%
債権買取収益	1,714	1,810	1,872	61	103.4%

- 医療・介護分野が大幅に増加し、全体での債権取扱高の増加に大きく寄与
- 消費税増税の影響を受け、小売業の債権取扱高及び債権買取収益が一時的に減少したものの、徐々に回復基調に

3. 債権取扱高 業種別

業種別 債権取扱高推移

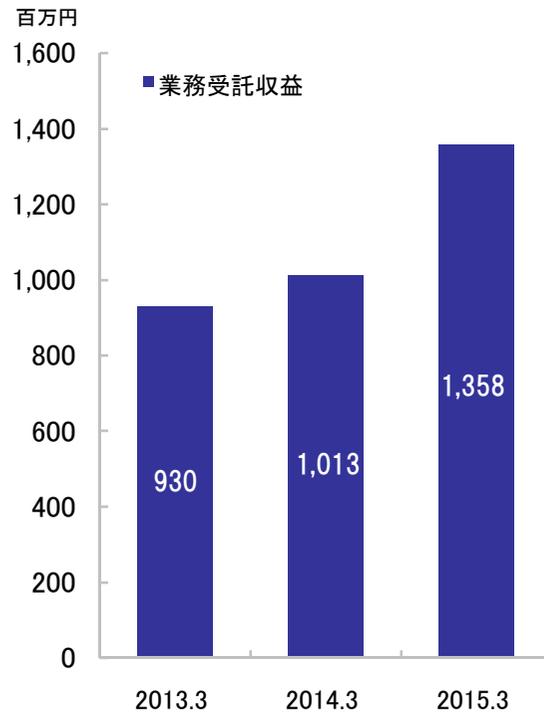


(単位:百万円)

	2013.3		2014.3		2015.3		増減	前期比
	債権取扱高	構成比	債権取扱高	構成比	債権取扱高	構成比		
債権取扱高	138,626	100.0%	157,693	100.0%	181,117	100.0%	23,424	114.9%
小売/卸売	114,450	82.6%	119,217	75.6%	124,509	68.7%	5,291	104.4%
医療/介護	259	0.2%	24,889	15.8%	41,928	23.2%	17,039	168.5%
メーカー	20,425	14.7%	9,760	6.2%	7,592	4.2%	△ 2,167	77.8%
サービス	1,420	1.0%	1,314	0.8%	1,842	1.0%	528	140.2%
海外事業(タイ)	-	-	415	0.0%	3,541	2.0%	3,125	851.6%
その他	2,070	1.4%	2,095	1.3%	1,702	0.9%	△ 393	81.2%

4. 業務受託収益

業務受託収益推移



(単位: 百万円)

	2013.3	2014.3	2015.3	増減	前期比
営業収益	2,807	2,932	3,345	413	114.1%
債権買取収益	1,714	1,810	1,872	61	103.4%
業務受託収益	930	1,013	1,358	344	134.0%
業務受託収益率	33.1%	34.6%	40.6%	-	-
その他収益	162	108	115	7	107.0%

- ▶ 既存提携先の取引高増加に伴う業務量の増加及び受託業務の範囲を拡大
- ▶ 当期開始したレジオペレーション業務受託により、収益が増加
- ▶ 結果、業務受託収益は前期比 134.0%

5. 金融費用

有利子負債残高推移



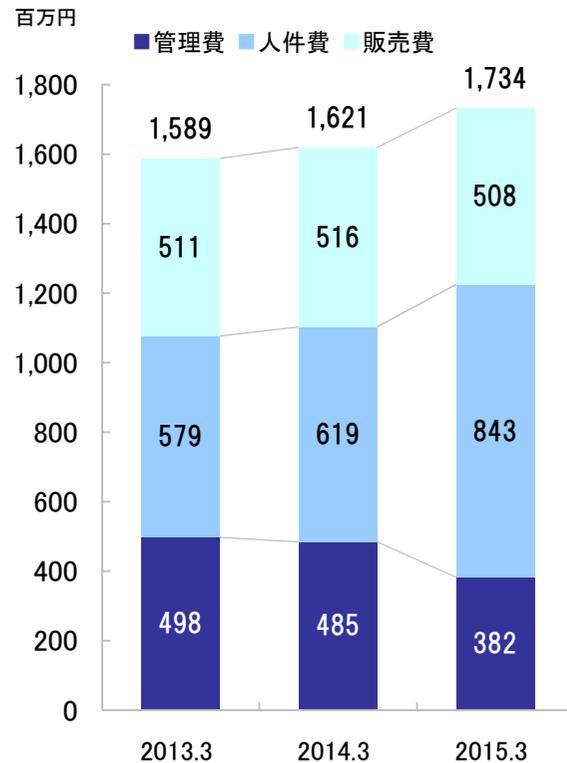
(単位:百万円)

	2013.3	2014.3	2015.3	増減	前期比
債権取扱高	138,626	157,693	181,117	23,424	114.9%
営業収益	2,807	2,932	3,345	413	114.1%
金融費用・社債利息	288	216	175	△ 40	81.4%
有利子負債残高	16,487	15,124	14,226	△ 898	94.1%
金融費用・社債利息 営業収益	10.3%	7.4%	5.3%	-	-

- ▶ 効率的な資金運用により有利子負債残高は減少。営業収益に占める金融費用等の比率は大幅に減少し、5.3%
- ▶ 2年契約のシンジケートローンの導入や当座貸越枠の増額により、安定的で効率的な資金調達が可能体制が実現

6. 販売管理費

販売管理費推移



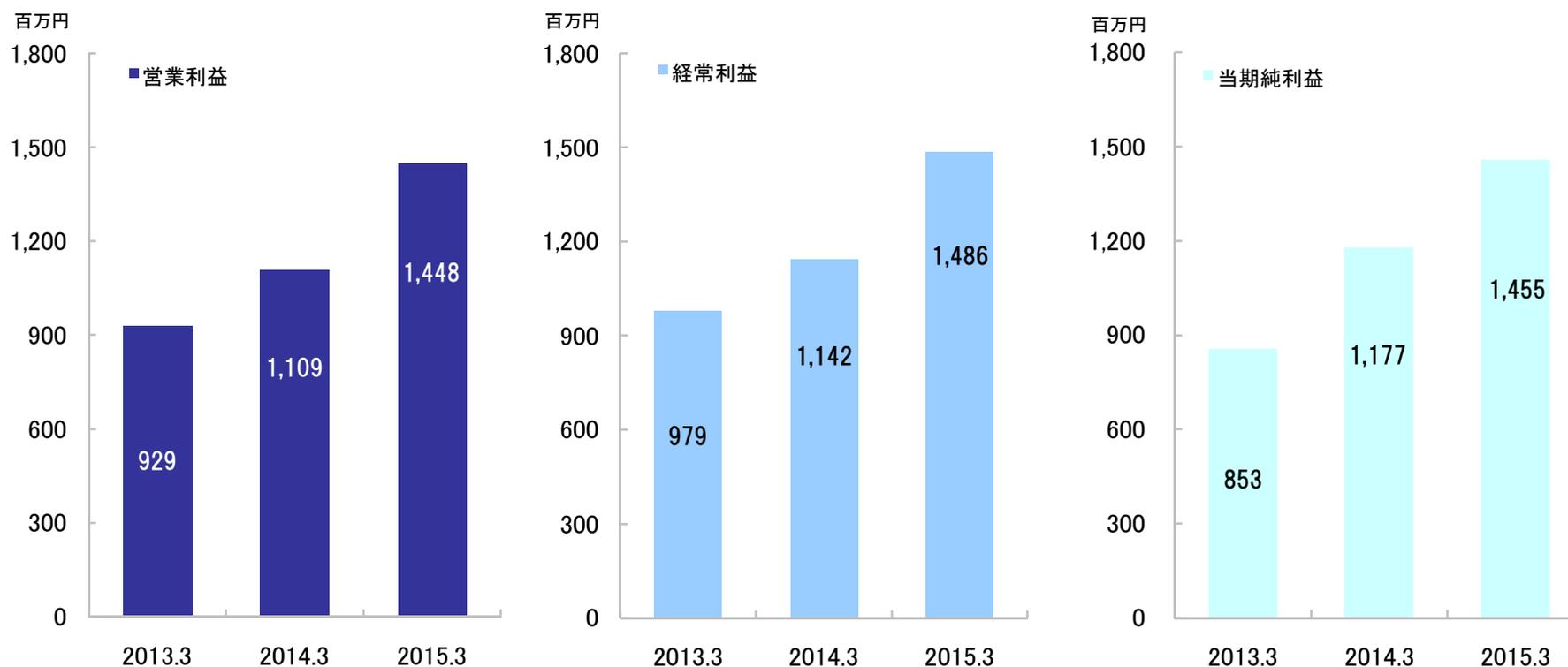
(単位: 百万円)

	2013.3		2014.3		2015.3		増減	前期比
	対営業収益比		対営業収益比		対営業収益比			
営業収益	2,807	100.0%	2,932	100.0%	3,345	100.0%	413	114.1%
金融費用	288	10.3%	200	6.8%	163	4.9%	△ 37	81.5%
販売管理費合計	1,589	56.6%	1,621	55.3%	1,734	51.8%	112	106.9%
販売費	511	18.2%	516	17.6%	508	15.2%	△ 8	98.3%
人件費	579	20.6%	619	21.1%	843	25.2%	224	136.2%
管理費	498	17.8%	485	16.6%	382	11.4%	△ 103	78.8%
営業利益	929	33.1%	1,109	37.8%	1,448	0.0%	338	130.5%
社員(人)	68	-	74	-	112	-	38	151.4%
(全従業員(人))	210	-	227	-	357	-	130	157.3%

- レジオペレーション業務等の業務受託範囲の拡大に伴い、人員が大幅に増加
- 人件費は前期比 136.2%
- シンジケートローンの未更新年度のため、管理費が減少

7. 営業利益・経常利益・当期純利益

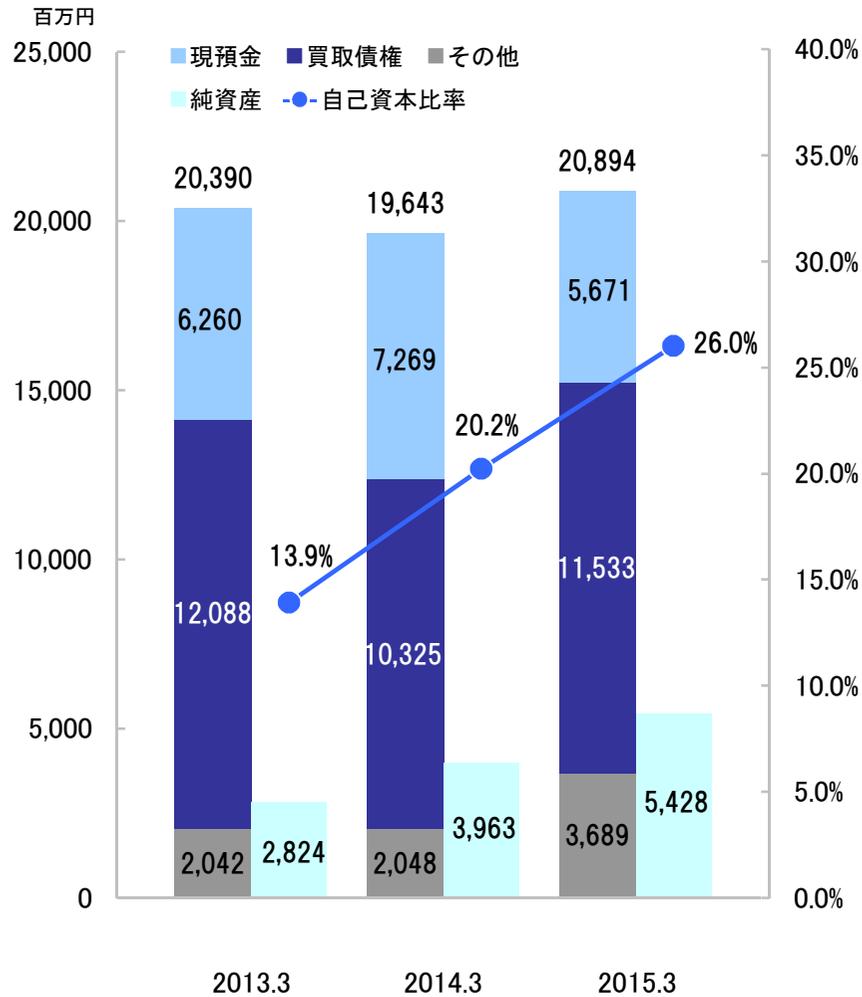
営業利益・経常利益・当期純利益の推移



➤ 営業利益・経常利益、当期純利益は順調に推移

8. BSの概況

資産・純資産推移



(単位: 百万円)

	2013.3	2014.3	2015.3	増減	前期比
総資産	20,390	19,643	20,894	1,250	106.4%
純資産	2,824	3,963	5,428	1,465	137.0%
自己資本比率	13.9%	20.2%	26.0%	-	-

- 利益の積上がりにより純資産が増加
- 当期末自己資本比率は着実に上昇し、26.0%
- 継続的に安定した配当を行う体制が整ったことから、1株当たり2.3円の配当を実施(7期ぶりの復配)

Ⅱ . 2016年3月期における取組み

1. グループ事業領域

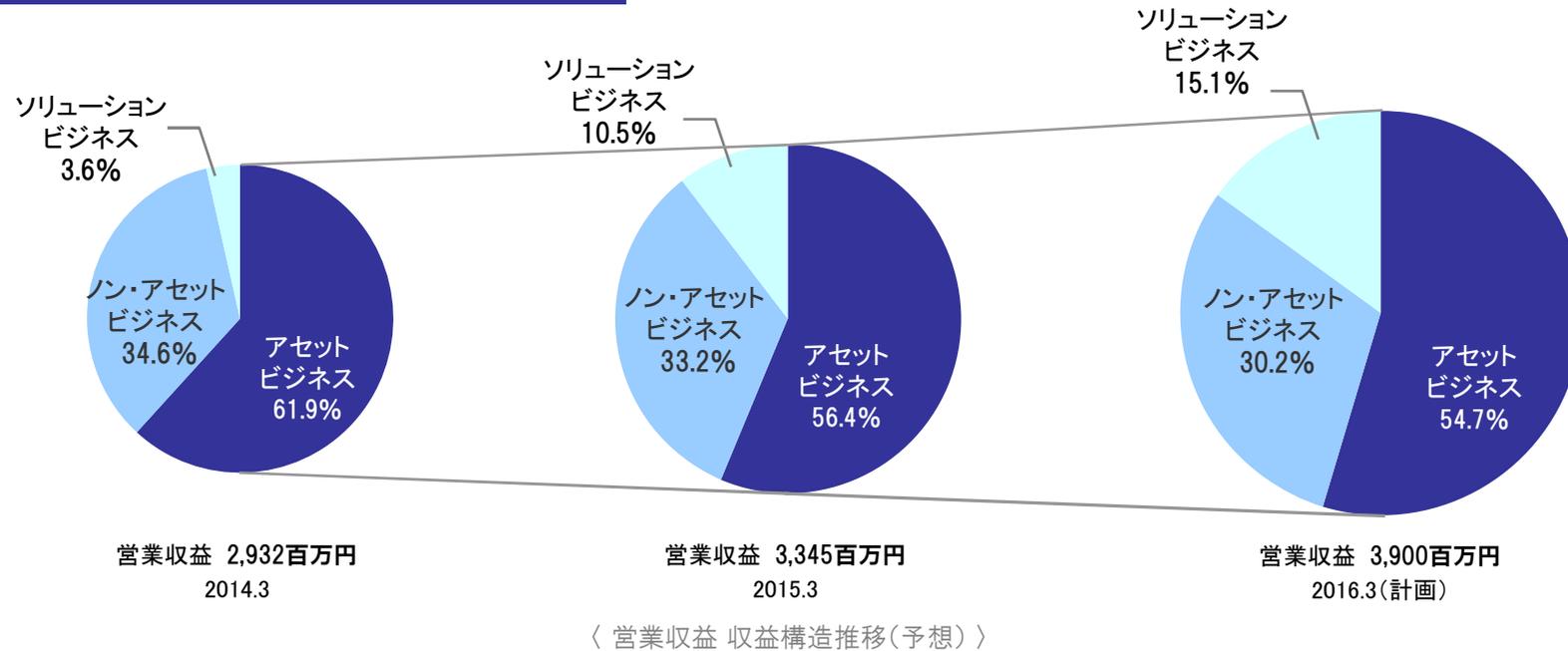
アクリーティブグループの事業領域



▶ 既存事業を基盤とした当社グループの様々なリソースを最大限に活用し、新たな収益の柱の育成を、今期の重点取組み課題とする

2. 事業ポートフォリオ

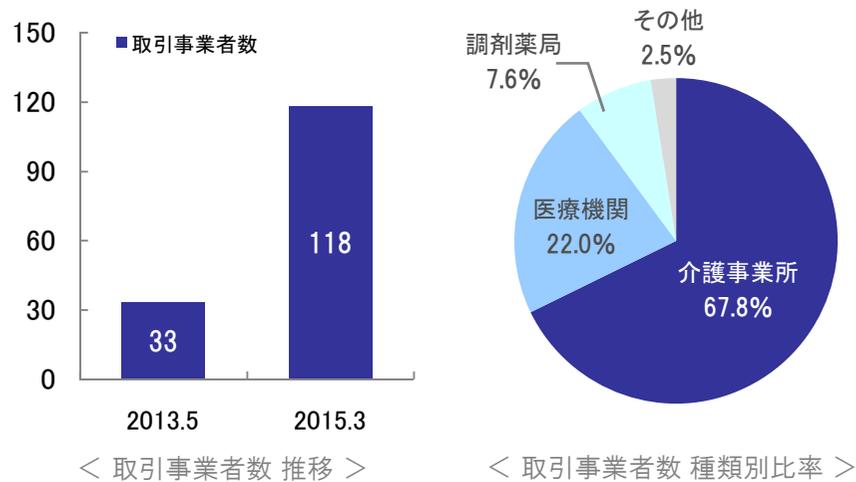
事業ポートフォリオの推移



- ▶ 営業収益は、アセットビジネスである債権買取事業、ノン・アセットビジネスであるアウトソーシング事業を中心に、堅実に推移
- ▶ 既存事業をベースとして、積極的に新規成長市場への取り組みを開始し、徐々にポートフォリオの分散が進捗

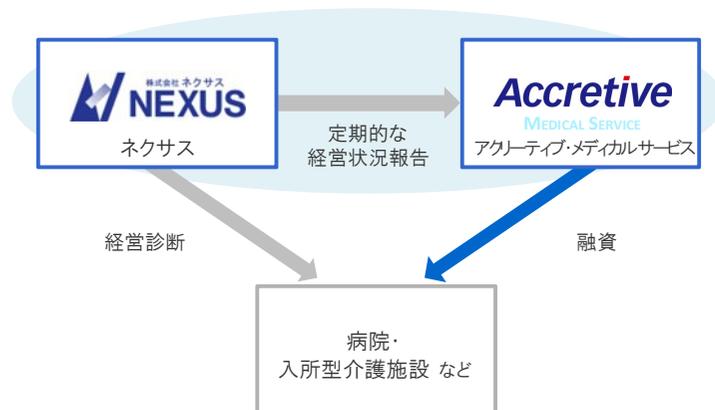
3. 医療・介護分野における取組みについて

新規顧客獲得の施策



- アライアンスパートナーとなる医療・介護事業者の周辺関連企業へは継続してアプローチ
- 取引事業者の幅が広がり、ポートフォリオ分散が進捗
- 引き続き、介護報酬・調剤報酬等のマーケットのトレンドを取込みつつ、営業を強化

新規ファイナンスサービスの開始



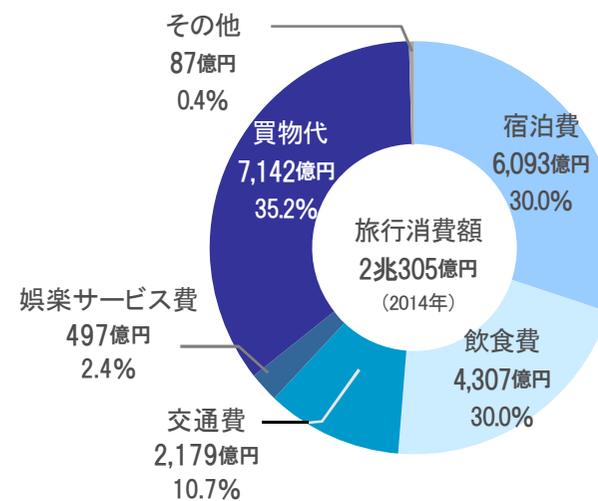
- 医療・介護事業者向けの新たな資金調達方法として、株式会社ネクサスとの協業により新規ファイナンスサービスを開始
- 競合他社がまだ取り組んでいない長期融資型のサービスを提供することで、新規顧客層の開拓に加え、既存顧客の満足度向上を強化

4-①. インバウンド関連分野における取組みについて

インバウンド関連市場



< 年別訪日外国人旅行者数・旅行消費額の推移 > 出典: 観光局 (JNTO)



< 費目別 旅行消費額 > 出典: 観光局 (JNTO)

- 2015年2月、インバウンド関連事業として小売店舗における外貨レジ精算サービスを開始
- 当期、今後さらなる拡大が期待されるインバウンド市場への事業展開を本格化
(組織横断プロジェクトの立上げ)
- 精算業務に派生する各種支援サービスを、顧客のニーズに応じてパッケージ化することで、インバウンド市場に対応した「ソリューション」として提供予定

4-②. インバウンド関連分野における取組みについて

<外貨対応支援サービス> 外貨レジ精算・両替支援サービス



外国人観光客



支援端末

・外貨レジ精算支援端末の機能

「外貨レジ精算支援機能」、「両替機能」、「通貨自動判別機能」、「偽札鑑定機能」

- ▶ 外貨によるレジ精算サービスを、小売事業者を始め、ホテルやレジャー施設等の他業界に向けて展開検討
- ▶ 「レジ支援端末」を新たに企画・開発し、各事業者のインバウンド市場への参入をサポート

<免税対応支援サービス> 免税一括カウンター設置サービス



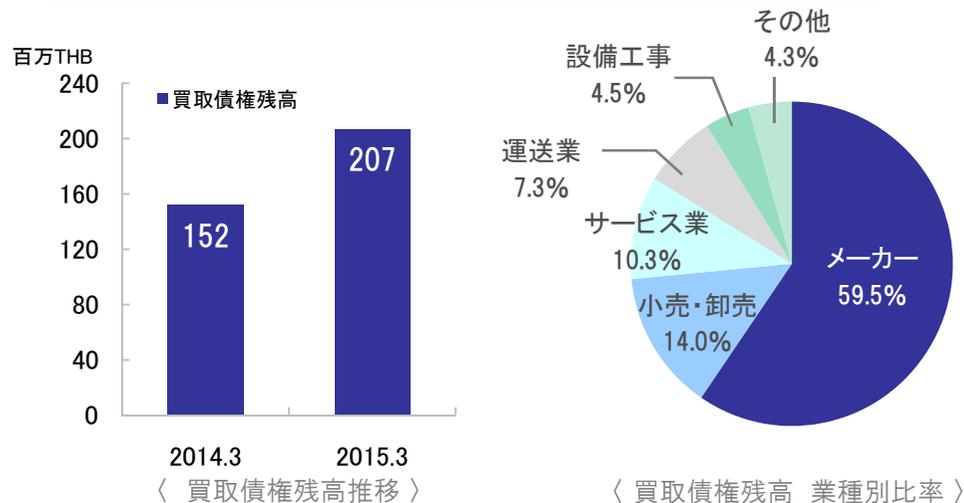
・免税対応一括カウンターの設置 商店街等、設置エリアの免税処理の一括引き受け

・その他アドバイス、サポート 「免税店許可申請の代行」、「外国人接客対応」

- ▶ 他社に先駆けて免税カウンターの代行業務をサービス化し提供
※ 2015年4月の税制改正により、消費税免税手続きの第三者への委託が可能に。
- ▶ グループが持つ免税手続きに関するノウハウを生かし、全国各地の商店街、ショッピングモール等に提案予定

5-①. 海外における事業展開について

タイにおける買取債権残高の推移



- 当初目標の債権残高200百万バーツを達成
- 自動車部品メーカーを始め、小売・卸、設備工事、サービス業といった多種多様な業種の債権を保有

タイにおける新規サービスの提供の開始



- タイ国内において、サービシング事業を開始（不動産担保付き不良債権の買取）
- Accretive Asset Management (Thailand) を設立し、2月中旬にライセンスを取得
- 現在、具体的な入札案件に参加中

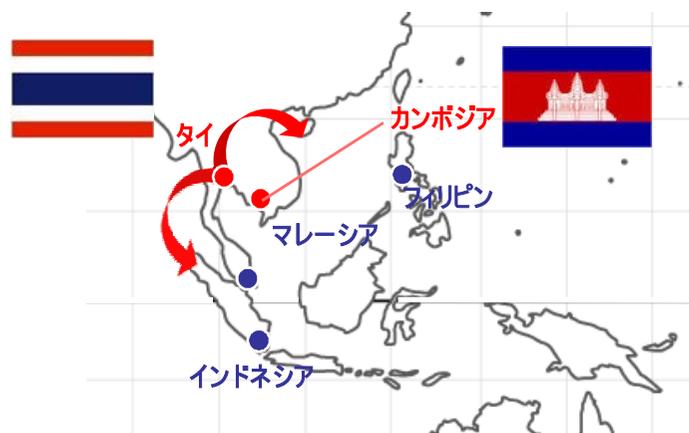
5-②. 海外における事業展開について

タイ国内の事業展開について



- ▶ タイ国内においては、引き続き既存ビジネスの深耕およびビジネスラインの拡張を積極的に推進

ネクストタイへの事業展開について



- ▶ 2015年末のASEAN経済共同体(AEC)発足をビジネス拡大のチャンスととらえ、タイに続く進出国を検討中

6. 2016年3月期 業績予想 (2015.04.01～2016.03.31)

業績予想

(単位:百万円)

	2014.3	2015.3	2016.3 通期予想	増減	前期比
営業収益	2,932	3,345	3,900	554	116.6%
営業利益	1,109	1,448	1,570	121	108.4%
経常利益	1,142	1,486	1,600	113	107.7%
当期純利益	1,177	1,455	1,530	74	105.1%
営業利益率	37.8%	43.3%	40.3%	—	—
配当 (円/株)	0.00	2.30	2.90	0.60	—

将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、

リスクと不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、

予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

- 資料に関するお問合せ先
アクリーティブ株式会社 社長室
電話番号 03-3552-8701
E-mail ir@accretive.jp